令和２年度
宮崎県立日南高等学校
第３学年通信

繋げ！EXCELSIOR

令和2年 7月 17日
第 12 号

～ 友人の話③ ～

私の自家用車のナビは、「今日は〇〇の日です」と教えてくれる。はじめて聞いたときはそんなことまで喋るのかとびっくりしたが、毎日豆知識が増えるのは楽しい。ちなみに今日は「漫画の日」らしい。

ある時期、漫画家に憧れたことがあった。習字で使う墨汁をインク代わりにペン入れの真似事も始めた。だが、どうしても同じ人物を何度も描けないという適性のなさ？を悟り、諦めた。高校入学後、図書委員通信の編集作業をきっかけに他のクラスのKと知り合った。Kは明るく爽やかな体育会系、部活動に打ち込んでいて青空の下で白球を追う姿が眩しかった。2年生の冬、何気なく進路の話になった時にKはある公立大学の名前を挙げた。その国際系の学部に行って何を目指すのかと訊くと、Kはきっぱり「漫画家になる」と言った。描いて伝えたいことがある。そのために、さまざまな人の集う大学で外国語を通して文化と歴史を学び、幅広い知識やものの見方を身に付けたいのだ、と。あまりに意外な告白に驚きつつ、心の距離は一気に近づいた。Kの作品は粗削りながら熱く、がつんと心に響く何かを感じた。宣言通り志望校に合格したKは、宣言通り大学生活を充実させた。部活動を続け、海外留学も果たした。一方で、愛読する某少年漫画雑誌にひたすら描いては投稿を重ねていた。

「読み切り作品でデビューが決まった」と知らされたのは、大学4年の春の終わりだった。私は最後の教育実習の準備を始めていた。その年の宮崎県高校国語科の教員募集がないことを知り、描いていた進路が半ば絶たれたような思いでいた頃だった。Kは就職活動を止めた。絶対に連載するという夢を実現するために。間もなくデビュー作が掲載された雑誌をもらった。買わせてほしいと頼んだが、次はよろしくと笑顔で断わられた。己の夢に向かって真っ直ぐな主人公の姿がK自身と重なった。私にもまだやってみたいことがあった。悩んだ末、進学することを決めた。

あの春から随分と経った。Kは夢を果たすべく、アルバイトをしながら描き続けている。K の課題は画力だという。年を重ねるごとに巧みになる年賀状の絵を見ながらKを思うとき、ひたむきに夢を追うことと、現実との折り合いをつけることの難しさを考える。それでも密かに願ってしまう。この道を選んだ彼女の作品がいつかあの雑誌に載って本屋の棚に積まれるならば今度こそ、自分で買って読みたいと。

月	日	曜	行事予定（３年に関するもののみ）	朝	夕	備考
7	18	土	英検一次			
	19	日				
	20	月	普通授業	○	○	７：２５校門通過
	21	火	普通授業	○	×	７：２５校門通過
	22	水	普通授業	○	○	７：２５校門通過
	23	木	海の日			
	24	金	スポーツの日			
	25	土				
	26	日				
	27	月	６限授業	○	○	７：２５校門通過
	28	火	普通授業・２年未来戦略課発表会	○	×	７：２５校門通過
	29	水	普通授業	○	○	７：２５校門通過
	30	木	普通授業	○	○	７：２５校門通過
	31	金	普通授業	○	○	７：２５校門通過
8	1	土				
	2	日				